

事業区分	文化芸術事業		鑑賞事業	
事業名	MALTAジャズビッグバンド倉吉公演			
目的・内容	<p>倉吉市出身で世界的サクソプレーヤーのMALTAを中心に日本を代表するミュージシャンで構成されたビッグバンドの公演を開催することで、質の高いジャズ音楽を鑑賞する企画を提供し、男性鑑賞者の獲得とジャズ音楽ファンの裾野を広げる。また、倉吉市市民音楽祭でもある「天女音楽祭」の一事業として位置づけ、財団と倉吉市・実行委員会との連携を図り、双方の事業が相乗的な活性化、質の向上を図ることにより、地域における文化芸術振興の協働体制をさらに推進する。</p> <p>(使命)文化人口の拡大とレベルアップ、県民へのサービスの推進 (事業の柱)鳥取県の人材を活用した事業、子どもや青少年のための文化芸術体験の充実を図る事業、地域や施設の特性を活かした事業、国内外の質の高い舞台公演の鑑賞機会の提供を目的とした事業</p>			
開催日時	平成24年10月28日(日) 開演14:00			
会場	倉吉未来中心 大ホール			
入場料 (友の会)	SS席 4,500円 (4,000円)	S席 3,500円 (3,000円)	高校生以下 1,000円	
集客状況	入場者数 701名	設定席数 1,187席	集客率	59%
事業費状況	予算額	収入 3,057,000円	支出 4,394,000円	収支比率 70%
	決算額	収入 2,670,950円	支出 4,249,071円	収支比率 63%
来場者アンケート (主なもの) 回答者数 210名	<p>回収率30%、満足度80%、新規顧客獲得率18%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグバンドは迫力があつた。倉吉でのMALTAさんの公演は特別です。熱が違います。これだけのメンバーの演奏はなかなか聴けないので良かった。 ・プロのジャズは始めてでしたが、聴きごたえがありました。 ・カフェの設置はよかつた。できれば1Fでもオープンしている案内があると、もっと早く上がったのですが。 <ul style="list-style-type: none"> ・地元(倉吉)での公演にビッグアーティストが少ない ・カフェのテーブル席を、もう少し増やしてほしい。 ・MALTAさんの声(MC)が聞こえにくかつた。PAが全体的(特にMC、ソロ)が小さく、もっと音圧がほしい。ノリが悪くなる。 ・駐車場が満車。駐車場の誘導・案内がもう少しあつたら良かった。 			
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉吉市市民音楽祭である「天女音楽祭」と連携し、その実行委員会、倉吉市との協働による事業が実施できた。 ・プロミュージシャンMALTA氏の念願であつた地元倉吉でのビッグバンド公演の実現、自らがプロデューサーを務める音楽祭との連携による、満足度80%以上に演奏者も会場も盛り上がった公演となつた。 ・プレ公演(アトリウム劇場)でアマチュアの「天女ジャズビッグバンド公開リハーサル」、地域商店街との連携、当日カフェのオープンなど、本公演に向けて様々な企画を連動させた。 ・倉吉市市民もMALTA氏のミュージシャンとしての世界的評価を再認識し、行政とともにその認識を高めることができた。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MALTA氏は毎年市の音楽祭に出演しており、その目新しさを伝えること(プロのビッグバンドの素晴らしさ)は容易ではなかつた。 ・吹奏楽部員等、若年層の取り込みや、男性鑑賞者の獲得には十分な成果が得られなかつた。特に若年層にジャズやビッグバンドは大人向けという観念や敷居の高さを感じさせるものがある。それをいかに打破し、その楽しさを伝えていくかが今後の課題。 			
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年のマルタ公演にして久しぶりの盛況であり、来場者の満足度も高く良い公演であつた。 ・県内で県出身者の、そしてこれほどまでに質の高いバンドの演奏が開催されることに大きな意義がある。 <p>[課題等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年のアマチュアの音楽祭のバンドではなく、日本の第一線のプロ集団のメンバーで構成されたビッグバンドの公演であることを中・高生にいかに伝えていくかが課題。中・高生には良いものを聞かせたい。 ・県外、海外で活動する県出身アーティストが増えつつあるが、民間実行委員会、個人と財団の連携を保持・活用することが、県音楽文化の質的向上、プロフェッショナルな人材育成のためにも重要である。 			
今後の対応、 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・本公演を単なる鑑賞公演として位置付けてはいけない。今後、実行委員会や地元出身アーティストの役割などを検証していく必要がある。 ・若い世代の文化芸術体験機会を高めるために、今後もミニコンサートの限らずリハーサルの公開やワークショップ、講演(トーク)や展示など、様々な手法で、ジャンルやアーティストに触れ、関心を抱ききっかけになる企画を実施していく。 			